



煌めけ真壁っ子

学校便り 第 5 号
令和 4 年 6 月 7 日 発行
学校長 津嘉山 博好

日常の一コマ紹介（1・2年生の教室から）

6月2日に、1年生・2年生の図工の時間の様子を参観した時の様子を紹介します。

1年生は、自分の描いた絵を先生に見てもらいたくて、黒板の前に集まっては「先生、見て」とばかりに、自分の作品を先生の前に広げていました。一人広げるとすぐに次の子が作品を広げ、先生は一人一人の作品に対して認めてあげる言葉をかけ、それを聞いた子ども達は満足げに笑顔を見せていました。



2年生



1年生

2年生は、新聞紙で思い思いの作品を作っていました。1年生と同じように、出来上がった作品を先生に見せていました。素晴らしい作品がいくつも出来上がっていました。中には、まるでみの虫になったかのように、新聞にくるまり、自分自身が作品になる子も出現しました。子ども達の自由な発想に驚かされました。

水泳学習が始まりました

5月31日の1校時、雨天になる前の晴れ間を利用して、6年生の子ども達と一緒にプール開きを行いました。真壁小の子ども達が最後まで安全に水泳学習ができるよう御願をしてスタートさせました。始めは天気もよく、太陽も出て暑かったのですが、終わる頃には豪雨になってしまいました。それでも思い切り楽しんだ6年生でした。



6月の行事予定(確認)

- 1日(水)委員会活動
教育相談旬間(~16日)
- 6日(月)クラブ活動
- 13日(月)クラブ活動
- 15日(水)音楽朝会
- 17日(金)学習発表会準備
- 19日(日)学習発表会
学校運営協議会
- 20日(月)読み聞かせ
- 22日(火)萬華之塔慰霊祭
- 23日(木)慰霊の日
- 24日(金)振り替え休日
(学習発表会)
- 27日(月)クラブ活動
- 28日(火)避難訓練
(地震・津波)
- 29日(水)授業研究会(6年)
- 30日(木)歯科講話(4年)
歯の漏れ検査

「いのち」とふれあう

いろんな小学校をまわって、動物とのふれあい体験学習の講師をなさっている獣医さんのお話です。小学生に「死んだ動物は、ボタンを押すと生き返ると思う人？」と尋ねると、どこの小学校でも必ず何名かの手が挙がるそうです。以前死んだカブトムシを持って、乾電池を入れ替えてくださいとお店に行った子どもの話を聞いたことがあります。どちらも本当の話のようです。獣医さんによると、核家族化や動物とのふれあいが少なくなっている今、家族や動物の「死」と向き合う経験が乏しく、「いのち」は失われれば、二度と生き返らないということを実感としてわかっていないからではないかとのことでした。

こんな話も聞きました。ある男子中学生の家では、ミニダックスフンドを飼っていました。その犬が病気になり、家族みんなの必死の看病もむなしく、とうとう死んでしまいました。彼にとっては身近な「死」に関わる初めての経験でした。びくともしない愛犬を見たときの心の痛みは忘れられないそうです。何よりも両親の嘆き悲しむ姿を見て、もし自分が死んだら両親はどんなに悲観にくれるだろうかと思うと、「ぼくは、死ねないな」と強く思ったそうです。このような事例から、私達大人が子どもに「いのち」とふれあう機会を意識的に設け「いのち」の大切さを教えることが必要なことではないかと思います。

現実性を持って死を理解できるようになるのは3・4年生の頃と学習指導要領(道徳科)には記されていますが、幼いうちから「生きていることの素晴らしさ」や「生命の尊さ」などを学校でも家庭でも話していくことは大切だと思います。

6月23日は慰霊の日です。また、その前日の6月22日には、真壁の萬華之塔で慰霊祭があると聞いています。復帰50年とあわせて、50年間を振り返ることで改めて「平和とは何か」を考えるよい機会となると思います。学校でも、子ども達とともに平和について考えていきたいと思います。

いのちへの感謝のことは「いただきます」と 食事を用意してくれた人への感謝のことは「ごちそうさま」

「いただきます」

古くから人は自然の恵みをもって生きてきました。自然の恵みとは、数々の動植物の「いのち」をいただくことです。その「いのち」を頂戴していることに対して、

「あなたのいのちをわたしのいのちにさせていただきます」

と感謝と敬意をあらわしています。だから、食べ物を粗末にすることは「いのち」を粗末にすることなのです。

「ごちそうさま」

漢字にすると「ご馳走様」。「馳」「走」ともに「はしる」の意味です。昔は今のように食材が簡単にお店で買えるわけではありませんでした。お客様の食事を用意するために、自ら狩りや収穫をしたり、それこそ走り回って大変な思いをして食材を集めていました。だからこそ、料理そのものに対する感謝だけではなく、その料理を用意してくれた人に対してお客様が心からの感謝の気持ちを表した言葉、それが「ごちそうさま」というわけです。